

# 流域住民の声をまとめた「コレカラボイス その2」(整備の考え方編) 発行されました!

平成17年3月までに開催されたオープンハウスや車座集会などで寄せられた意見のうち、整備の考え方に関するものと、具体的な場所に関するものを分類、整理して「コレカラボイスその2(整備の考え方編)」としてまとめています。あわせて、土岐川庄内川に特に関心の高い方々が集い議論を重ねてきた「市民意見交換会」の提言も掲載しています。

★コレカラボイスを欲しい方は、庄内川河川事務所コレカラプロジェクト担当までお申し込みください。



## 具体的な場所に関する意見の紹介 ~8区間にとりまとめた意見~

### 具体的な場所に関する意見

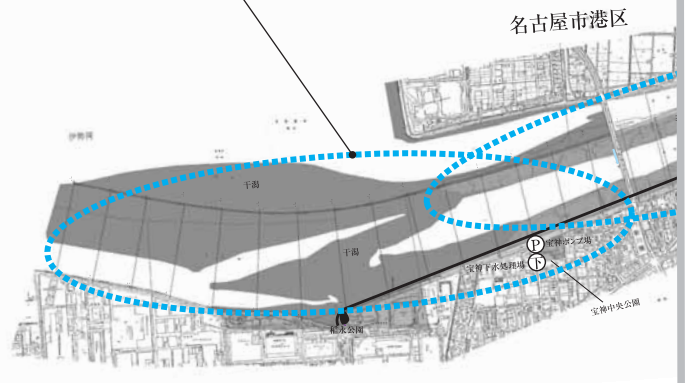
具体的な場所に関する意見のまとめ方  
平成15年春以降、各地でオープンハウス、車座集会を実施し、具体的な場所に関連する課題、提案など、数多くの意見をいただきました。ここでは、これまでに寄せられた意見のうち、具体的な場所に関して言及している全ての意見をとりあげて、区間ごとに整理し、沿川の図面上に示しました。これは、皆さんの即地的なニーズを表すものであり、課題を解決するために、具体的にどのような対策をすべきかを検討するのに非常に有効な情報です。



空間区分  
区間1：河口～大当郎橋付近  
区間2：大当郎橋～枇杷島橋付近  
区間3：枇杷島橋～勝川橋付近  
区間4：勝川橋～下志段味橋付近  
区間5：下志段味橋～玉野堰付近  
区間6：玉野堰～記念橋付近  
区間7：記念橋～三共橋付近  
区間8：矢田川合流点～宮前橋付近  
支川・その他の河川  
流域別 (流域全体/下流域/中流域/上流域/上中流域)

### (区間1) 河口～大当郎橋付近

- 治水対策
  - ◇堤防の強度が心配。安全性を高めるべき。(4)
  - 水の力が強いので、ブロックよりコンクリートにして欲しい。【河口】
  - 高潮堤が老朽化しているため対策を施してほしい。【河口】
  - ◇洪水・水害の防止と干渉の保全の両立を。(3)
  - 干渉に鳥がくるとは嬉しいが、堤防が老朽化しているのが心配。
  - 安全性を高めるために河道を掘るのは仕方ないが、干渉に影響が出るのが心配。
  - ◇土砂の堆積が心配。(2)
  - 堤防を高くするとたちごっこになるので、掘削するべき。【河口】
  - ◇干渉の保全よりも安全性を重視すべき。
  - ◇区画整理に伴う田の減少により水害の拡大が心配。
- 水辺利用
  - ◇子供などが安全に環境学習や自然観察できるヒートアップ花畑、野鳥観察館などの場があると良い。(3)
- 水辺へのアクセス
  - ◇駐車する場所が無く、水辺にアクセスしにくい。車で川に行きやすくなると良い。(2)



## 整備の考え方に関する意見の紹介 ~8つのトピックでとりまとめた意見~

### 整備の考え方に関する意見

#### 整備の考え方に関する意見のまとめ方

皆さんが日頃土岐川庄内川に関して課題とされていることを「コレカラボイス その1(課題編)」として平成16年3月にとりまとめ、発行しました。その課題の中から次の8つのトピックをとりあげ、平成16年春以降に開催してきたオープンハウスで、トピックに関する皆さんの考え方を伺ってきました。6ページ~12ページにとりまとめたのは、その意見を分類、整理したものです。

#### トピック

1. 治水の目標を検討するにあたってどのようなことに気をつけるべきか?
2. 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか?
3. 内水被害解消をどのように進めていくべきか?
4. 治水工事をどのように進めていくべきか?
5. 水質の改善をどのように進めていくべきか?
6. 外来生物への対処をどのように進めていくべきか?
7. 堤防道路をどのようにしていくべきか?
8. 河川空間をどのように利用、管理していくべきか?

#### とりまとめた意見の見方

皆さんから寄せられた意見は、同じ内容どうして束ね、「意見の主旨」としてとりまとめています。また、計画づくりに反映しやすいように、同様の「意見の主旨」を集め、それぞれタイトルをふっています(例: 1-1 などからはじまる文章)。なお、意見の主旨の文末の数字(例:(2))は、意見の主旨の元となった意見の数を表しています。1つしか意見がない場合には、数値の記述はありません。

- 都市計画は官民協働で行い、流域での治水を考えるべき
  - 個人の水害対策への優遇が図られると良い
  - 水田を保水能力の一部と考え、対策をすべき(2)
  - 公共施設の地下を貯留施設として活用すべき
  - 浸透性の高い舗装などの敷設を推進すべき
  - 雨水貯留は必要と思うが、費用をかけすぎは問題(2)
  - 河川には手を加えず、貯水に都市の地下用すべき
  - 過去のデータに基づいて、貯留施設を計画すべき
  - 工事を中止された更地が洪水の原因となることが心配
  - 地下の許容量が不足しているため、地上に貯留施設が必要
  - 貯留施設の設置には、それに有効な場所を慎重に検討すべき
- 1-8 情報の提供が大切  
●危険箇所等の情報提供が大事(3)  
●計画づくりに関するフィードバックをきちんと行うべき  
●災害時の安全性についての情報提供が必要  
●災害の補償も明確にしてほしい
- 2 雨水貯留・雨水浸透対策をどのように進めていくべきか?  
2-1 流域全体で一體的に雨水貯留・雨水浸透対策を推進すべき  
●治水のため、市民・行政、上下流域が一体となって取り組むことが必要(34)  
●開発を抑制し、森林や緑地の確保を通して、保水能力を確保すべき(18)  
●雨水を再利用することが大事(7)  
●治水のため、上下流域が一体となって取り組むとともに、自然環境にも配慮すべき(7)  
●下流の被害を抑えるため、保水への取り組みが必要(3)  
●市民個別の雨水貯留では効果が期待できないため、市民・行政が一体となって取り組むべき(2)
- 2-2 雨水貯留・雨水浸透のための適切な設備を設置すべき  
●貯留タンクによる家庭での雨水の再利用を促進すべき(9)  
●雨水貯留施設が設けられれば、安心できる(4)  
●ダムなどができるのは好ましくない(3)  
●雨水貯留対策として、貯水池をつくるのがよい(3)  
●貯留施設は必要だと感じるが、根本的には自然の保水能力を高めることが必要(3)
- 2-3 雨水貯留等と併せて他の施策を実施することも重要  
●貯留施設だけでなく、河床掘削など併せて行うべき。森林保全による涵養能力も高めるべき(2)  
●雨水貯留が重要であるとともに、川の水質にも注意が必要(2)
- 2-4 雨水貯留等の施策では限界があるのではないかと  
●河道の改修等抜本的な解決策を講じるべき(7)  
●ダムを造ることで対応できないのか  
●衛生・交通への影響が考え得るので、貯留施設に反対  
●雨水貯留の必要性は感じない  
●洪水・水害対策のために堤防整備を重視すべき  
●洪水とうまくつきあっていくことで良いのではないかと  
●上下流域の人々がともに満足することは不可能
- 2-5 雨水貯留・雨水浸透を効率的に進めるためのメンテナンスも重要  
●雨水貯留・浸透設備の設置は重要だが、メンテナンスが不可欠なので、心がけやそのための取組みが必要(5)

## 「土岐川庄内川交流会」が発足しました!

この夏、流域市民有志が「市民のできることで川づくりに取り組もう」と、新たなネットワークを発足させました。この会は、平成17年2月に河川整備計画に対して提言をまとめて終了した「市民意見交換会」の有志が発起人となり、発足しました。現在約50名が登録して、庄内川河川事務所の職員も参加し、「市民との協働プロジェクト」づくりに発展させるべく活動を行っています。今は上流、中流、下流でチームをつくり、それぞれが活動したい場所やテーマを絞り込む話し合いをしています。また各チームが案内役となり、おのおのエリアでの活動候補地を見て回るための「川歩き」を催しました。8月28日に下流歩き、9月11日には上流で水質・生き物調査、10月1日に中流歩きを行いました。

★今も随時、参加者を募集しています。今後の予定等は、下記にお問い合わせください。  
(財) 河川環境管理財団名古屋事務所  
土岐川庄内川サポーター事務局  
TEL : 052-565-1976 FAX : 052-571-8627  
E-mail : info-n@nagoya.kasen.or.jp.

